

韓国の保育教材の特性と工夫

中村 智子

九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2016年11月10日受付、2016年12月8日受理)

要 旨

本稿では韓国の私立幼稚園を訪ね、実際に視察した保育実践の事例について考察することを目的とする。現在、韓国ではテーマ設定型のプロジェクト保育とコーナー保育とを組み合わせた保育が主流である。そこで今回、4歳児年中組の保育参観を通して、5つの主な活動について考察する。中でも保育教材に注目すると、教材が遊びだけの目的ではなく、豊かな知識を蓄え、子どもたちの柔軟な発想を刺激し、ゆさぶりをかける教材が多いことに気付いた。また既成の教材だけに頼らず、保育者の手作りによる教材が多いことも特色の一つだとわかった。教材を通して手作りのもつ温かさを子どもたちに伝えようとする意図がみられる。参観を通して、日頃から保育者が綿密な保育計画を作成し、子どもたちへの細やかな配慮をしながら保育を進めていることが窺えた。この結果をもとに韓国の保育者が使用する指導書に着目し、教材について調査研究していくと共に、日本の保育現場において今後、実践できる教材を探求していきたい。

キーワード：韓国 教材 保育参観 幼児教育

1. はじめに

訪韓した幼稚園の充実した教室環境に魅了されて早6年が経つ。教室へ一步踏み入れると、そこはタイムスリップした「恐竜」の世界が広がっていた。具体的には5～6枚つなげた模造紙に子どもたちが描いた恐竜の絵が壁一面に貼ってあり、天井を見上げると恐竜の作品が至るところに吊るしてあった。さらに保育者の読まれる手作り紙芝居もすごろくもパズルも絵本も、そして恐竜になりきる衣装までもと全てが「恐竜」一色の環境であった。それだけでなく、現在の韓国幼児教育では不可欠といってよい英語教材が教室の壁面に多く見られた。教材の一つである恐竜カードがハングル文字ではなく全て英語表記で、他にも自由に文字が並べられるようにアルファベットカードも用意されていた。ここまで徹底した教室環境を日本でみたことは筆者の記憶にはない。筆者が幼稚園教諭時代に保育参観や公開保育で季節にふさわしい教室環境を子どもたちの作品を織り交ぜて工夫した経験はあるが、もしこの時期に訪韓していたらと自らの保育を振り返らせるほど、保育者の教育に対する情熱がひしひしと伝わってきたのである。また子どもたちの「恐竜」に対する関心が遊びを通して自然

と学べる環境でもあった。これを機に同幼稚園への再訪、大学の附属幼稚園、また地方の幼稚園と各年齢による教材を知るべく幾度と訪韓した。そこには、参考にすべき要素が多々あり、実際に授業で活用している。保育教材に対する関心が以前よりも増し、他国の教材から多く学ぶべきところがあると気付いた。韓国では国の保育規定により、2012年に5歳児対象にヌリ課程（就学前義務教育課程）が導入され、2013年には満3・4歳児にまで対象を広げ実施されている。「ヌリ」とは「世界、世の中」という意味で、「ヌリ課程」は全人教育と創造性育成を二本柱とした幼保一元型カリキュラムのことをさす。またヌリ課程は5領域『身体運動・健康、コミュニケーション、人間関係（社会関係）、芸術経験、自然探求』と11テーマ『幼稚園と友達、私と家族、住んでいるところ、健康と安全、動植物と自然、生活用具、私の国、世界のいろいろな国（4・5歳）、交通機関、季節、環境と生活』で統一された教育課程である。現在、このテーマ設定型のプロジェクト保育とコーナー保育とを組み合わせた保育が主流である。コーナー保育とは教室の中でいくつかの遊びがそれぞれの場所のできるよう区切られ、遊びの教材が置いてある保育のことをいう。前回の幼稚園とは異なるものの、今回も活動内容や方法を通して新たな教材を学ぶべく訪韓したが、偶然にも保育参観と重なり、急ぎよ子どもたちの保護者と一緒に参観することになった。他国の保育を参観するのは筆者にとって初めてのことであり、どのような活動をされているのか。実際に参観を通して教材を含む活動内容を明らかにしていく。

2. 研究の目的と方法

韓国の幼稚園を視察し、どのような保育参観が行なわれているのか。またどのような保育教材を使用しているのか。実際に事例を通して詳細に考察することを研究の目的とする。今回は韓国の高陽市にある私立幼稚園を訪ね、年中組の授業を参観し、担任保育者より原語で書かれた活動内容資料を筆者が翻訳し、分析していく。

訪問日時：平成27年11月4日（木）10：00～12：00

場 所：京畿道高陽市一山

幼稚園名：私立クムナム幼稚園

青空クラス 4歳児（年中）16名（※訪問時人数）

担当教諭：2名

参観内容：自由選択活動及び朝の集い、ゲーム、体育、料理、評価及び帰宅指導

3. 結果

(1) 私立クムナム幼稚園の状況

京畿道高陽市一山はソウル市の北西部に隣接し、以前訪問した幼稚園から徒歩数分の場所

にあり、高層アパート（日本でいうマンション）が密集した住宅地域である。ソウル市内へは電車で30分位と、通勤・通学にも便利な場所でもある。

園長先生と挨拶をすませると、直接園内を案内して下さった。建物は1・2階が保育室で給食室と遊戯室は地下に配置されてあった。さらに階段の壁には様々な植物の種や蝶々の標本が展示され、子どもたちが自然と目に留まる位置に工夫がされていた。日本の幼稚園では見かけない給水機の設置に紙コップも添えられていた。保育参観で来園した保護者へのおもてなしが行き届いていた。韓国ではよくみかける光景であり、以前筆者が学院（ハグォン）の科学教室を訪れた際に見かけた記憶がある。

次にクラス構成は3歳児（年少）1クラス、4歳児（年中）2クラス、5歳児（年長）2クラスの計5クラスあり、クラスには各2名の先生が配属されている。今回は1クラスの参観であった為、全園児数の把握は難しかった。職員は園長をはじめ、幼稚園教諭10名、栄養士1名（他に2名の食事担当）、運転手2名が主で、他に専門教員（美術・バレエ・体育・英語）が1名ずつである。

(2) 青空クラス（年中組）の状況

参観するクラスに入ると天井から吊り下げられた万国旗がにぎやかに飾られ、今月の生活主題は「世界のいろいろな国」についてと予想がついた。担任教諭は順次登園してきた子どもや保護者と挨拶を交わし、日本と同様な朝の風景がみられた。子どもたちは身支度を済ませた後、自由選択遊びに取り組んだ。筆者も2名の担任教諭に挨拶をし、にこやかに迎え入れて下さった。儒教の教えからか、それとも親の躰からか、自分よりも目上の人を見ると挨拶をする姿をよくみかけた。筆者が日本から訪れたことがわかると、一人の男の子が「おはよう」と日本語で話しかけてきて大変驚いたが、なぜ日本語を知っていたのか。後の活動で明らかとなった。

(3) 保育参観の流れ

保護者へ当日の参観活動内容資料が配布され、筆者も同様に頂いた。直訳を行い、(表1)にまとめた。

表1 2015年度 保護者参加授業

◇授業活動内容 【青空クラス】

時 間	活動名	活動内容
10:00～10:20	①自由選択活動 及び 朝の集い	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんと一緒に登園する幼児を喜んで挨拶しながら迎え入れる。 ・自分の持ち物を定位置に整理する。 ・お母さんと一緒に領域別活動をする。

時 間	活動名	活動内容
10:00 ~ 10:20	①自由選択活動 及び 朝の集い	<p>◆言語領域</p> <p>【世界旅行へ出発だ！— 立体的な絵本作り】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の様々な国について調べる。 2. 立体絵本にある絵をみてどんな国なのか考えてみる。 3. 絵にふさわしい国の名前を書いてみる。 4. 立体絵本に名前を書いて仕上げる。 <p>【世界各国の名前を書く】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界各国の国旗の本をみる。 2. どんな国なのかを考える。 3. ボードマーカーを利用し、国名を真似して書く。 4. 文字を全て書いた後、消しゴムで消して元の場所に整理する。 <p>◆手操的領域</p> <p>【地球村はお互いの友だち】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知っている国名を言うてみる。 2. ゲーム版を見ながら語り合う。(国旗, 伝統料理, 伝統衣装など) 3. ゲーム版を見て、どちらの国にするのか順序を決める。 4. さいころを投げて出た数の分、絵を探してはる。 5. 自分のゲーム版を先に埋めた友だちが勝つゲームである。 <p>【ムクの世界旅行パズル】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ムクが旅行した国を言うてみる。 2. ムクが旅行したことがある国の中で希望する国のパズルを選ぶ。 3. パズルのかけらを見て絵を探しあわせる。 4. パズルを合わせながら何か話をする。 <p>◆美術領域</p> <p>【世界各国の人たちのネックレス作成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界各国の多様な民族について調べる。 2. 美術領域で準備された材料を説明してみる。 3. 世界の様々な国の人々の中で、どんな国の人々の顔で飾るかを考える。 4. 材料を利用しながらネックレスを飾る。 5. ネックレスを完成後、使用した材料等をもとの位置へ片付ける。 <p>☆片付けの歌にあわせて領域ごとで使ったものをもとの位置へ片付ける。</p> <p>☆話をする場所にお母さんと一緒に集まり座る。</p> <p>☆今日の日課について調べる。</p>

10:20 ~ 10:50	②ゲーム 「ムクと一緒に 出発する 世界旅行」	<p>【ゲーム：ムクと一緒に出発する世界旅行】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ムクが旅行する世界の様々な国について調べる。 2. 「ムクと一緒に出発する世界旅行」のゲーム方法について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2つのチームに分かれる。(マキチーム/ネコチーム) ・ チームの順序を決める。 ・ 順序にあわせてお母さんと子どもが登場する。 ・ 子どもがクイズに答えたがる国を選択した後、該当国の国旗を抜き取る。 ・ 抜き取った国と関連した問題をお母さんが読み上げ、子どもがそれに答える。 (問題の答えがあっていた場合：チームの旗を抜き取った国旗の場所に差し込む) (問題の答えが間違っていた場合：定位置に国旗を差し込んで場所に戻す。) ・ 全ての子どもに1回ずつ順序が回ったらゲームは終了。 ・ チームの旗の数を数えて、旗が多いチームが勝ち。 3. ゲームを進めていく。 4. ゲームが終わった後、ゲームを評価してみる。
10:50 ~ 11:10	③体 育	<p>☆教師（体育専任）と挨拶を交わした後、お母さんと一緒に準備体操とリズム遊びをする。</p> <p>☆活動のやり方を聞いてお母さんと一緒に大きいなボールで遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に寝転んで大きいボールを足でけること。 ・ 落下する位置に足で跳ね飛ばすこと。 <p>☆お母さんと互いにマッサージして最後に整理体操をする。</p> <p>☆活動の評価をした後、教師と挨拶を交わす。</p>
11:40 ~ 12:00	④おいしい料理時間	<p>【あおさと牡蠣のチヂミ】</p> <p>☆料理を作る前にきれいに手を洗って調理台に集まる。</p> <p>☆材料を紹介した後、作る方法を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 練り粉に多様な材料を入れてまぜる。 ・ フライパンに油を入れて生地をのせる。 <p>※火を使っている時、子どもの手にタッチしないようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんがり焼きあがった後、器に入れる。 <p>☆食事の祈りをした後、おいしくいただく。</p> <p>☆全部食べ終わった後、自分の席をきれいに掃除する。</p>
11:40 ~ 12:00	⑤評価 及び 帰宅指導	<p>☆面白い童話の国 絵本：「小さなサンタニコライのクリスマス」</p> <p>☆日課の評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1日の日課を評価する。 2. 面白く印象に残った活動などを語り合う。 <p>☆帰宅指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 挨拶をして帰宅する。

出所) 私立クムナム幼稚園 担任保育者作成

(4) 活動内容

次に保育参観で取り上げられた5つの主要な活動について詳細する。

① 「自由選択活動及び朝の集い」

登園すると子どもたちは先生と挨拶を交わし、持ち物を所定の場所に置き、昨日から引き続きの領域で遊んでいた。保護者は子どもの傍で様子を見守り、声をかけながら一緒に取り組む姿があった。知人の女の子は美術領域のコーナーで集中してネックレスを作っていた(写真1)。他の子どもたちは立体的な絵本を作成する為、カラーペンで色塗りをし、完成させたものを保護者に嬉しそうに見せる様子を垣間見た。おおよそ子どもたちが登園を済ませると、担任の先生は子どもたちに声をかけ、朝の集いが始まった。日本の幼稚園のように個人用の椅子はなく、子どもたちは床に座り、先生は子供用の椅子に座った。おそらくオンドル(韓国式床暖房)になっていると推測する。その為、日本でいう体操座りの姿で話を聞くのではなく、男女共にあぐらをかいた作法であった。保護者は次の活動に備えて子どもたちの後ろに座った。それから先生がおもむろに歌い出すと、子どもたちが後から続けて歌い始めた。「世界の朝のあいさつ」という歌で歌詞の中に日本語の朝の挨拶がでてくる(譜例1)。先ほどの男の子はこの歌で覚えた日本語を筆者に話しかけてくれたのであろう。歌い終わると朝の挨拶を交わしたが、普段の園生活とは違う保護者の姿に数人ふざけている子どもを担任の先生は見逃さなかった。「あら、おかしいですね。青空組のみなさんは赤ちゃんですか。」の先生の言葉に、子どもたちは大笑いをし、そこで気付かせた後、再度やり直しとなった。今日の日付と曜日について、先生は手遊びを入れながら確認をし、回転式の小さなボードを動かして、日課の内容について話をする場面があった。ゲームや体育レッスン、それから料理と子どもたちに理解しやすいようカードに指をあてながら内容を抑えられていた。内容を把握した子どもたちからは歓声がおこり、始まる活動を楽しみにしている姿がみられた。

② ゲーム：「ムクと一緒に出発する世界旅行」

もう一人の保育者が両サイドに分かれて座っている子どもたちの間に縦1メートル横2メートル程の水色ボードを置いた。それは世界地図になっており、水色は海洋を表していた(写真2)。そして主要国の上にはデザインされた国旗が数十個近く配置されていた。詳細は(表1)の活動内容に記述する。2つのチームになって、いよいよゲームが開始する。子どもがボード上に置かれてある好きな国の旗を選択した場合、例えばフィンランドの問題は「サンタクロースがそりに乗ってひいている動物は何でしょう。」やブラジルを選択した問題は「この国で最も有名なスポーツは何でしょう。」そして日本の問題には「韓国というカルグクスに似た食べ物は何でしょう。」など、日本から訪ねてきた筆者に子どもの答えが「うどん」で合っているか、先生に正解を尋ねられる場面があった。選んだ国

の旗に付いている問題は保護者が読み上げ、それに子どもが答え、合っていたら各チームの旗が置かれるというゲームである。一人一問ずつ答えられるよう準備がされており、正解すると子どもたちは保護者に抱きついたり、手を合わせて喜んでる姿がみられた。最後はどちらの旗が多いかをみんなで数え、和やかに終了した。

③ 体育レッスン

次は地下室にある遊戯室へ移動する。一つ前のクラスが終了し、分刻みに慌ただしく活動が始まった。地下室であることを考え、壁が明るい色彩に工夫されていた。遊戯室の床は柔らかなマットが敷き詰められ、すべて転んでも大きな怪我につながらないよう安全対策がとられていた。体育専任に始まりの挨拶をして、元気よく準備体操が行なわれた。その後、ナイロン製の大きな長い布を保護者が両側に分かれて持ち、そのトンネルになった中を子どもたちは音楽にあわせて数回くぐり続けた。次にみんなの足が中央に来よう円状に寝そべり、足で大きなボールをみんなで蹴りあげ、保護者もボールの行方に気を付けながら子どもの後ろで参加した(写真3)。保護者と一緒とあって子どもたちは大喜びで、どの子も意欲的に取り組んでいる様子であった。終始、元気のよい掛け声でテンポよく進められ、担任の先生も子どもたちと一緒に参加されていた。およそ20分の活動であった。

④ 料理時間

教室へ戻ると、寄せられた各机の上が調理台として準備され、その上にはガスコンロとフライパン、料理に必要なチヂミ用の具材が置かれていた。子どもたちは丁寧に手を洗い、担任の先生より教室前のパソコン画面に映し出された料理の写真とその手順について、話に耳を傾けていた。今日の料理名は「あおさと牡蠣のチヂミ」で、あおさや牡蠣についてのどのような栄養があるのか、わかりやすく子どもたちに話してあった(写真4)。料理をする前の約束事として、火のそばに近付かないよう、子どもたちへ再確認されてあった。一つのグループに3から4名の家族が集まり、和気あいあいと出来上がりをまつた。他にリンゴジュースやヨーグルトも用意され、食べきれない量が出来上がった。筆者も勧められ、一緒においしく戴いた。

⑤ 評価及び帰宅指導

前の活動を終わると各クラスの保護者は2階に上がり、園長懇談会に出席した。筆者も一旦は場所を移動したが、その後の子どもたちの活動を知るべく教室へ戻った。

絵本の読み聞かせが終わると、今日一日の振り返りの話へと続いた。先ほどの静けさかうそのように、子どもたちは先生の質問に手をあげ、元気に答える姿があった。保育参観を通して、楽しくて面白かった活動や印象に残った活動のことを、子どもたちは興奮気味

に先生へ話をしていた。一人の子どもが先生へ話しかけている時、他の子どもたちは黙って耳を傾け、友だちの方を向いて静かに聞いていたことに感心させられた。当たり前の行為ではあるが、一人ひとりの子どもたちとの対話を日頃から大切にされている成果であると感じた。保護者が教室へ戻ってくると、明日の予定を確認して、参観が終了した。

4. 考察

通常保育よりも半日短い保育参観であった。普段は保育を終えて午後2時頃に降園する。日本では保育参観といえば、保護者が教室の後ろに立って子どもの普段の生活を参観し、園の教育方針に対して理解して頂く貴重な場である。保育参観とは言え、内容や形態は様々であるが、日本でも園ごとに趣向をこらし一部の活動に保護者も参加する保育参加型が増えている。保護者が子どもと同じ目線に立ち保育に加わることで、一緒に楽しむ活動を通して親子の絆を確かめたり、また保護者同士のコミュニケーションも深めたりすることができる場でもある。

今回、参観した青空クラスの活動内容は殆ど保護者が保育に参加する形態であった。保護者は保育に関わる重要な役割を持ち、保育者の指示に耳を傾け、活動が速やかに進行できるよう協力されていた。また全体を通して、子どもの活動を妨げる私語や保護者同士の無駄話しは全く見られなかった。

両国の朝の風景はさほど変わらないと先述したが、子どもの様子を観察すると、違う光景が見られた。それは登園してから朝の集いまでの自由遊びにおける時間の使い方である。筆者が勤務していた幼稚園も含め、一般的な日本の幼稚園では登園して所持品の片付けを済ませると、各自教室内で絵を描いたり、粘り遊びや絵本を読んだり好きな遊びをして時間を過ごす。

子どもの動きに注目すると、保育者が月ごとの主題テーマに沿った教材を各コーナーに置き、子どもたちが自ら進んで遊ぶ方法がとられていた。自由遊びと自由選択遊びの違いである。その為、その日のテーマにふさわしい幾つかの教材を前日までに保育者は選択し、教材内容も子どもたちが興味や関心、そして知的好奇心を持つものでなければならぬことを熟知されていた。それは日頃から、子どもたちの活動を温かく見守りながらも注意深く観察し、育てたい力を把握しているからだ。その為、遊びだけの目的ではなく、豊かな知識を蓄え、子どもたちの柔軟な発想を刺激し、ゆきぶりをかける教材が多かった。訪問時の活動は前日の続きからであることを担任の保育者から聞いていたので、子どもたちの行動に無駄がなく容易に取り組んでいた。

そもそも教材とは教育目的の到達を目指し、子どもたちへ意図的に選択・提供したものである。その教材を正しく与え準備する為には、やはり保育者の教材研究は不可欠である。日本の教室より空間環境がやや広く、領域ごとに言語、英語、数・科学、美術（造形）、音律、

コンピューター、積み木など8から10箇所に分けられている。そして各々の遊びに必要な教材がすぐに手に取ることができるよう棚や机に整理・整頓して置かれている。自由選択活動を終わると、次は集団活動として、身体（体育）、音律、ゲーム、童話・詩、料理、話し合いなどの活動が始まる。

韓国の保育教材に魅了される一つに、既成の教材だけに頼らず保育者の手作りによる教材が多いことがあげられる。例えばすぐろく板からサイコロ、パズルや壁面にまで至る。手作りをする為には素材の性質を知り、牛乳パックや空の菓子箱、段ボールなどの廃材を上手に利用する研究が必要である。既製のものでは伝わらない手作りのもつ温かさが教材を通して子どもたちへ確実に伝わっているのではなかろうか。どれも丁寧な仕上がりで、子どもたちも大事そうに取り扱っていた。環境に多様な教材が用意されたとしても、子どもたちが興味・関心を示さなければ、その空間は無意味に近い。さらに、いつもと同じ環境であれば主体的な子どもの活動は当然見られないし、何も生まれてこない。やはり一人ひとりが毎日充実した豊かな活動を行う為には保育者の役割は重要といえる。子どもとどのような関わり方を持ち、また遊びを通して、個の成長・発達につなげていくのか。その背景には日々の努力だけでは片付けられない、綿密な保育計画と子どもへの細やかな配慮が窺えた。日本と同様、保育者は常に知識を広げ、時間を惜しまず研鑽を積み、普段の園生活に活かすことを忘れてはならない。そればかりか保育者は園生活における子どもの健やかな成長を願う以外に保護者の要望に応え、対応する総合的な判断能力が求められる。保護者が満足する運営をしていく為には、園全体で責務という重圧の中で子どもたちを預かっているにちがいない。

さて、このような魅力的な教材が製作・使用される背景には、保育計画を進める上で必要な保育者用の指導書があると考えられる。その指導書には年齢ごとにどのような目的があり、内容が書かれてあるのか。筆者は具体的な月別主題ごとの教材を知れば知るほど関心を抱いた。さらに教材について調査研究していくと共に、日本の保育現場において直接、実践できる教材を探究していきたい。

全てにおいて「より早く」が求められる気質漂う韓国ではあるが、人間性の土台を築く幼児教育だからこそ、子どもの成長・発達時期において最もふさわしい環境とは一体何なのかを見つめ直す必要があるのではなかろうか。社会はもとより地域全体で、子どもを育てる環境について考えていかなければならない。幼稚園の子どもたちを見る限り、日本とさほど変わりはないのだが、保護者のわが子への教育に対する考えが影響しているの言うまでもない。日本以上に少子化が進み、わが子だけはより賢く育てたいと願う親が多いことも否めない。子どもは親の期待に応えようと日々、塾へ出向き奮闘している。その塾自体に子ども自身が興味や関心を持ち、より多くを学びたいと思って習っているかどうか重要である。親はすぐに結果を求めるのではなく、わが子であるが故にじっくりと特性を見極め、そのらしさが十分に発揮できる環境を作り、子育てをすべきである。他国の現状を知ることで日本

のこれからの幼児教育に対する様々な課題について示唆していく必要がある。

5. おわりに

保育参観と重なったおかげで、子どもたちの様子はもとより保育者、そして保護者の動きが視察できる結果となった。保育者は通常の保育計画以上に緻密に準備したと考える。

日本より伝統遊びの一つ、「紙ふうせん」を持参し、子どもたちへの土産にと担当保育者に渡した。すると、保育者より早速、遊び方について質問され、紙ふうせんの膨らむ様子に保育者同様、子どもたちまでも歓声があき、一時、興奮状態となった。今月の生活主題にふさわしい土産であると筆者に伝えられた。

さて参観を終え廊下に出ると、今週の「家庭用新聞」という掲示が目にとまった。それには各クラスの行事活動が記載されたものであった。視察をした青空クラスの欄には「11月5日(木)：『世界のいろいろな国』の主題にふさわしい中南米文化院へ見学に行きます。子どもたちは多少なりとも馴染みのない中南米地域の多様な文化を経験するよい機会になると考えています。歩いて登園する方は9時30分までに登園して下さい。午前中に見学が済んだ場合は昼食を戻って食べることになります。」という内容であった。視察の日程が4日になったことが、ようやく解明した。

韓国の幼稚園における教材事例を中心に述べてきたが、言うまでもなく一つの園の活動内容であり、全体を掴めたとはいえない。現在、筆者は保育士・幼稚園教諭を目指す学生たちへ保育現場で役立つ実践教材を教授しているが、機会をみて韓国の子どもたちの前で日本の様々な教材を用いて実演し、文化交流をしたいと考えている。このように保育計画の中で、幼少時より異文化に親しむ土台がある韓国教育において、日本の文化について知る一助となることを願う。さらに教材研究を続け、園生活を過ごす子どもたちに遊びを通して豊かな環境が提供できるよう模索していきたい。

謝辞

本研究を進めるにあたり、訪問を快く受け入れて下さった幼稚園の園長先生をはじめ、教職員、保護者、子どもたち、そして、視察の調整に尽力頂いた友人のバクジョンソン氏に心から感謝いたします。

参考文献

- 勅使千鶴編 (2007) 「韓国の保育・幼児教育と子育ての社会的支援」 新読書社 (東京)
- 山岡テイ (2007) 「子育てサポートボックス 違いを認め、大事にしたい 多文化子育て 海外の園生活・幼児教育と日本の現状」 学習研究社 (東京)
- 日本保育学会編 (1997) 「諸外国における保育の現状と課題」 世界文化社 (東京)

- 横井志保・鈴木方子 (2013) 「韓国『子どもの家』における表現活動に関する研究－実験的実践の試みとヌリ課程『芸術経験』について－」
名古屋柳城短期大学研究紀要 第35号pp.111-118
- 石川眞佐江・志民一成 (2015) 「韓国の保育における音楽活動の実際－ソウル市内の幼稚園の事例から－」静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇) 第46号pp.59-75
- 長崎イク・金田利子・渡邊保博他 (2003) 「韓国の保育実践の特徴と類型化に関する日韓比較」
常葉学園短期大学紀要 第34号pp.1-14
- 임혜정 (2008) 「주제별 유아동요 선곡집」 피린미음 pp.185
- 長谷秀揮 (2013) 「韓国の保育の現状と課題についての一考察」四條畷学園短期大学紀要
第46号pp.20-28
- 中村智子 (2011) 「一つのテーマに関連した主活動の実例－ソウル近郊の幼稚園を訪問して－」西日本短期大学 総合学術研究論集 創刊号pp.127-133
- 中村智子 (2013) 「主活動における韓国保育教材の実例－子どもたちの午後活動から降園後の現状について－」西日本短期大学 総合学術研究論集 第3号pp.87-94
- ※本稿の譜例の訳は筆者が行う。



写真 1 : ネックレス作り



写真 4 : 料理の説明



写真 2 : 世界旅行ゲーム



写真 3 : 体育 (ボール遊び)

세계의 아침 인사

윤형진 작사
윤형진 작곡

세계의친구들 카 - 아침인사해보 자 -
세계의친구들 은 - 어떻게인사할 가 -
미 국친구는 굿 모닝 일 친구는 오하이오
프 랑스친구는 붐 부드 독 일친구는 구텐모르겐

譜例 1 : 「世界の朝のあいさつ」

(訳) 世界の友だちと朝のあいさつをしてみよう

世界の友だちはどんなあいさつをするのかな

アメリカの友だちは グッドモーニング

日本の友だちは おはよう

フランスの友だちは ボンジュール

ドイツの友だちは グーテンモルゲン

A Characteristic and Invention of the Korean Childcare Teaching Materials

Tomoko NAKAMURA

Department of Childhood Care and Education, Kyushu Women's Junior College
1-1, Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi 807-8586, Japan

Abstract

In this study, I visit a South Korean kindergarten and purpose actually considering the example of childcare activities. Today, in the kindergarten and the nursery school, South Korean childcare is carrying out corner childcare. Then, I describe five main activities through a 4 years-old child's childcare lesson. Childcare teaching materials were abundant, and the childcare workers was preparing so that children could play actively.

From this research, there were many things to learn from the teaching materials of a foreign country, and they became a precious key which understands new teaching materials. I would like to put attention on the teachers' manual which a South Korean childcare person uses, and to carry out surveillance study about teaching materials from this result. Furthermore, at the children at the nurture places in Japan, I think that I would like to search for useful teaching materials from now on.

Keywords : South Korea, teaching materials, childcare classroom visits, early childhood education